

Clinical Characterization of Vonoprazan- Refractory Gastroesophageal Reflux Disease

濱田, 匠平

<https://hdl.handle.net/2324/4060036>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (医学) , 課程博士
バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



氏 名：濱田 匠平

論 文 名：Clinical Characterization of Vonoprazan-Refractory
Gastroesophageal Reflux Disease
(ボノプラザン抵抗性胃食道逆流症の臨床的特徴)

区 分：甲

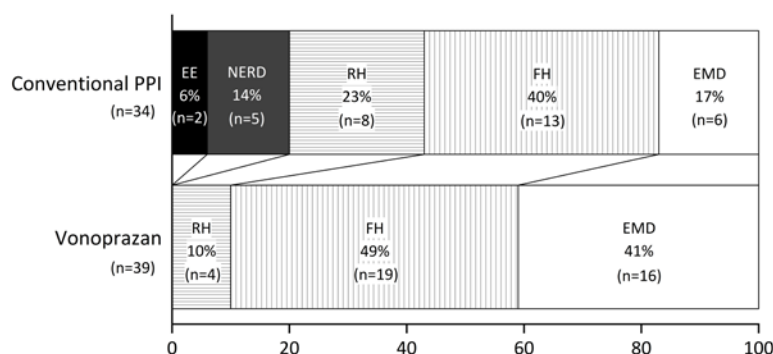
論 文 内 容 の 要 旨

序論：新しく開発されたボノプラザン（カリウムイオン競合型アシッドブロッカー）は、従来のプロトンポンプ阻害薬（PPI: proton pump inhibitor）よりも胃酸抑制能力が高くなっている。本研究の目的は PPI 抵抗性の胃食道逆流症（GERD: gastroesophageal reflux disease）の病態がボノプラザンを使用することでどのように変化するかを明らかにすることである。

方法：2013 年 3 月から 2018 年 11 月までの PPI 抵抗性胃食道逆流症 73 人を対象とし、食道機能の検査として高解像度食道内圧検査と 24 時間インピーダンス pH モニタリング検査を行い、従来の PPI を使用した群 34 人とボノプラザンを使用した群 39 人で後ろ向きに比較を行った。

結果：びらん性食道炎(EE: esophagus esophagitis)、非びらん性食道炎(NERD: non-erosive reflux disease)、逆流過敏症(RH: reflux hypersensitivity)、機能性胸やけ (FH: functional heartburn)、食道運動異常症 (EMD: esophageal motility disorder) に分類した。従来の PPI 群は EE 6%、NERD 14%、RH 23%、FH 40%、EMD 17%の割合であり、ボノプラザン群は EE 0%、NERD 0%、RH 10%、FH 49%、EMD 41%の割合と両者は有意に異なる結果であった($p<0.01$)。特に、ボノプラザン群では酸関連 GERD を認めなかった。また、EMD 群を除いて比較した場合、ボノプラザン群の食道下部酸暴露時間（0.1% [0.0%-0.5%], $n=23$ ）は従来の PPI 群(0.35% [0.1%-3.9%], $n=28$)より有意に低く ($p<0.05$)、胃の pH4 未満の holding time もボノプラザン群(7.7% [0.7%-34.5%])に比べ、従来の PPI 群(61.6% [49.4%-74.3%])は有意に低かった ($p<0.01$)。

結論：ボノプラザンは酸関連 GERD を除外診断する上で有用である。



図．従来のPPI群とボノプラザン群の難治性胃食道逆流症（GERD）の病態診断